

# BeTime 228

## 取扱説明書

この取扱説明書には、ピータイムの標準取付方法及び注意が説明してあります。本書をよく読んで理解してから取付及びご使用ください。本書は常に手もとにおいてご使用中にわからないことや具合の悪いことがおきたときにもよく読んで内容を理解してご使用ください。

### 購入時のご注意

万一、保証書ロット番号と本体ロット番号が違っていた場合は、商品をお使いになる前に弊社へご請求ください。

# 購入時のご注意

各部の名称	.....	3・4
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> <b>使用者への 注 意</b> </div>	① 取付け前の注意	..... 5
	② 使用上の注意	..... 6
	③ 使用者が行う動作確認	..... 7
	1. IDメモリーのセット	.....
	2. オートターボタイマーのセット	.....
	3. リモコンでスタート・ストップのテスト	..... 8
	4. ATシフト変更ストップまたはフットブレーキストップのテスト	.....
	5. ボンネットオープンスイッチのテスト	.....
	6. キースイッチ優先回路のテスト	..... 9
	④ 取扱い方法	.....
1. IDメモリーのセット	..... 10	
2. リモコンの使用上の注意と電池の交換	.....	
3. 現在時刻のセット	..... 11	
4. タイマー予約のセットとキャンセル	..... 12	
5. リモコン及びタイマーでエンジンスタートさせた時のアイドルリング時間の変更	..... 13	
6. ターボタイマーのセット	..... 14	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> <b>取付け者へ の 注 意</b> </div>	① 取付け前の注意	.....
	② 取付け作業中の注意	..... 15
	③ タップの使用方法	.....
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> <b>標準取付け 方 法</b> </div>	① 取付け方法概略	..... 16
	② 検出方法の選択	.....
	1. 検出方法の比較表	..... 17・18
2. 検出方法の違いによる注意	.....	

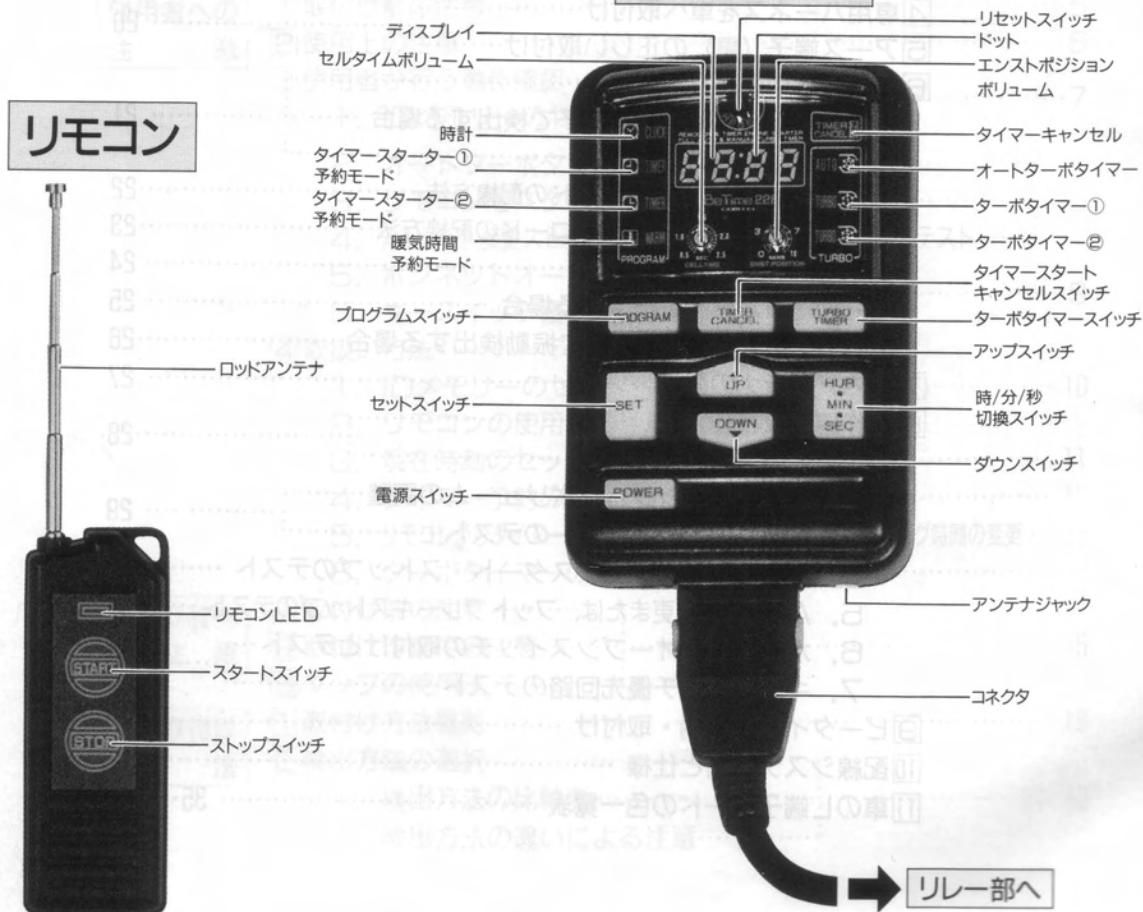
# 純正の音響

③専用ハーネス・リレー部・操作部の配線	19
④専用ハーネスを車へ取付け	20
⑤アース端子（黒）の正しい取付け	20
⑥検出方法別配線方法	
1. オルタネータのL端子で検出する場合	21
■L端子を見つける	
■L端子1（白）コードの配線方法	22
■ホーン⊕端子（橙）コードの配線方法	23
■ホーンへの接続方法	24
2. 電源から自動検出する場合	25
3. <b>オプション</b> Be-956Lで振動検出する場合	26
⑦室内アンテナの配線	27
⑧動作確認及び調整	28
1. IDメモリーのセット	
2. エンストポジションボリュームの調整	29
3. オートターボタイマーのテスト	
4. リモコンでエンジンスタート・ストップのテスト	30
5. ATシフト変更または、フットブレーキストップのテスト	31
6. ボンネットオープンスイッチの取付けとテスト	32
7. キースイッチ優先回路のテスト	
⑨ピータイムの収納・取付け	33
⑩配線システム図と仕様	34
⑪車のL端子コードの色一覧表	35・36・37

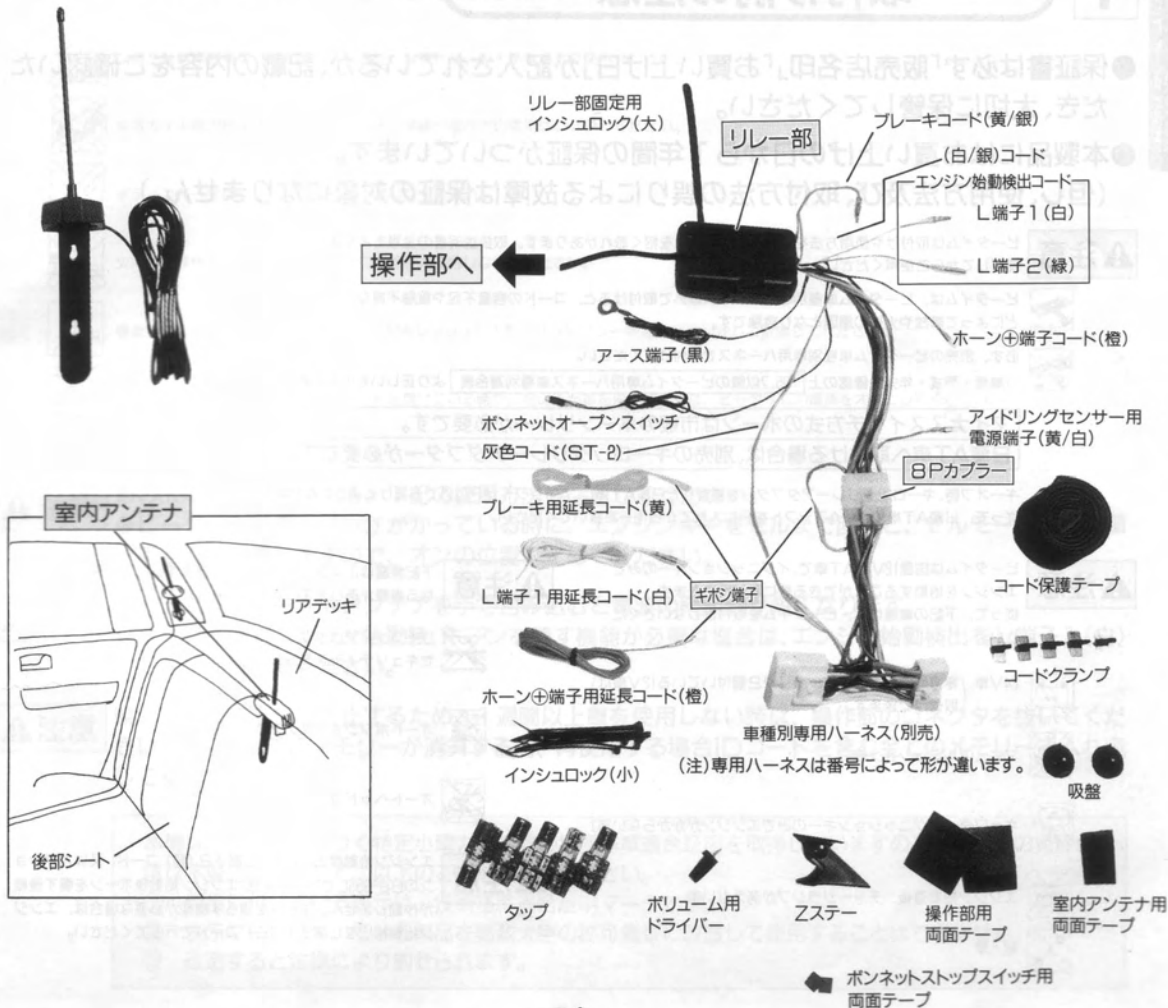
# 各部の名称

## 操作部

## リモコン



# 各部の名称



# 使用者への注意

## 1 取付け前の注意

- 保証書は必ず「販売店名印」「お買い上げ日」が記入されているか、記載の内容をご確認いただき、大切に保管してください。
- 本製品にはお買い上げの日から1年間の保証がついています。  
(但し、使用方法及び、取付方法の誤りによる故障は保証の対象になりません。)

### 注意

ピータイムは取付けや使用方法を誤ると事故や火災を招く恐れがあります。取扱説明書の注意をよく読み、理解してからご使用ください。



ピータイムは、ピータイム車種別専用ハーネス以外で取付けると、コードの容量不足や接触不良などによって事故や火災の原因となり危険です。



必ず、別売のピータイム車種別専用ハーネスで取付けてください。  
(車種・型式・年式を確認の上「95.7以降のピータイム専用ハーネス車種別適合表」より正しいものをお買い求めください。)

マイナススイッチ方式のホーンは市販のホーンリレーが必要です。

日産AT車へ取付ける場合は、別売のキーロックリレーアダプターが必要です。

キーオフ時、キーロックリレーアダプターを装着した日産AT車は、ATシフトがP以外でも抜けるようになります。従って、日産AT車は必ずATシフトをPに入れてからキーを抜いてください。

### 注意

ピータイムは国産12VのAT車で、イグニッションキーのみでエンジンを始動することができる車に取付けできます。従って、下記の車種には、ピータイムを取付けしないでください。



24V車 (寒冷地仕様などでバッテリーが2個付いている12V車は) 取付けできます。



マニュアルミッション車



キャブ車 (イグニッションキーのみでエンジンがかからない車)



エンジン始動直後、チャージランプが消えない車



輸入車

### 注意

下記装置はエンジンスターターを装着すると、正常に働かなくなる車種がありますので、ご容赦ください。



リモコンアロック  
セキュリティシステム



オートポジションステアリング&シート



オートヘッドランプ

### 注意

エンジン始動検出を自動、L端子2 (緑) コード、又はオプションのBe-956Lで行った場合、エンジン始動後ホーンを鳴らす機能が作動しません。ホーンを鳴らす機能が必要な場合は、エンジン始動検出をL端子1 (白) コードで行ってください。

## 2

## 使用上の注意

**注意** 事故・火災などの危険性がある、下記の状態や場所での使用はしないでください。



公道や公共の駐車場での使用は法令違反となります。必ず私有地でご使用ください。



排気ガス中毒の危険性がある、換気の悪い車庫や屋内での使用はしないでください。



ボディカバーを掛けたままの使用はしないでください。



火災の危険性がある、燃えやすい物の近くでは使用しないでください。



暴走事故を防止するため、ATシフトをPポジションに入れ、ハンドブレーキを確実に利かして駐車してください。



けがや事故を防止するため、ボンネットを開けている時や、他の人が車を使用する時は、ビータムの電源をオフにしてください。

**注意** 車の故障の可能性がある、下記の使用方法は注意してください。

●ビータムでエンジンがかかっている時に、エンジンキーをセルまで回すと、セルモーターが故障する恐れがありますので、オンの位置で止めてください。

**注意**

●リモコンのケースやアンテナを手で包み込むと電波の飛距離が短くなります。

●ビータムでエンジン始動後、ホーンを鳴らす機能が必要な場合は、エンジン始動検出をL端子1(白)コードで行ってください。

**注意**

車のバッテリー上りを防止するため、1週間以上車を使用しない時は、操作部のコネクタを抜いてください。但し、全てのメモリーが消失する為、再使用する場合IDコードを含む全てのメモリーを入れ直してください。

本機は、電波法に基づく特定小電力無線局の技術基準適合証明を取得していますので、無線局の免許申請は不要です。従って、以下のことを守ってください。

- ① 製品に付いている表示は、技術基準適合証明マークです。
- ② 表示マークの付いている製品を郵政大臣の許可無しに改造して使用することはできません。
- ③ 改造すると法律により罰せられます。

### 3

## 使用者が行う動作確認

●必ず使用する前に、車及びピータイムが正しく動作するかどうかの確認を、使用される方が行ってください。

### 1. 車の動作確認

イグニッションキーでエンジンをかけて

エアコン使用時、コンプレッサーが動作していますか？

ランドクルーザー等

オートクルーズが動作しますか？

アイドリングが下がって不安定になっていませんか？

日産・スバルの一部

対処方法

7ページの灰色コードのさし替えがされていません。

### 2. ピータイムの動作確認

#### 1 IDメモリーのセット

●IDメモリーのセットとはリモコンのIDコードをピータイムの操作部に記憶させることです。

#### ▲注意

- IDメモリーのセットを行う時は車の電装品はもちろん、テレビ・ラジオ・ドアブザー・周辺の強い電波などが無い状態で行ってください。
- 誤動作を防止するため、リモコンはスイッチを押してから1.5秒後に電波発信します。
- ピータイム取付け後やバッテリー交換後など電源投入後に必ずIDメモリーのセットを行ってください。

1. 車の電装品を全てOFFにしてからATシフトをPにしてイグニッションキーを抜く。



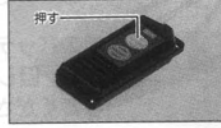
2. ホリウム用ドライバーでリセットスイッチを押してはなす。



3. ディスプレイに8888が点灯しすぐに消灯する。



4. リモコンのアンテナを伸ばし、スタートスイッチを2〜3秒押す。



5. ディスプレイがgoodに点灯しすぐに消える。



メモリーのセット終了



## 2 オートターボタイマーのテスト

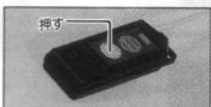
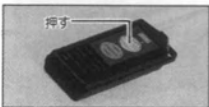
1. イグニッションキーでエンジン始動  
ATシフトをPにする
2. ターボタイマースイッチを押しオートにする
3. 30秒以上アイドルングしてディスプレイのカウントが上らないことを確認する
4. 10秒以上エンジン回転を約2000回転に保つ
5. ディスプレイのカウントが上がる事を確認する



## 3 リモコンでスタート・ストップのテスト

- 注意** ●誤作動防止のため、リモコンの電波はスイッチを押して、1.5秒後から発信します。

3. リモコンのスタートスイッチを2~3秒押す
4. 5秒後にセルが回りエンジンが始動しカウントダウン開始
5. リモコンのストップスイッチを2~3秒押す



1. イグニッションキーでエンジンをかけ、パワースイッチをオンにする
2. ATシフトをPにしてイグニッションキーを抜く



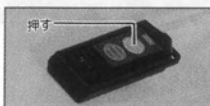
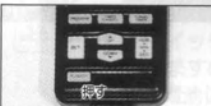
6. エンジンが停止し、ディスプレイが消える(スタンバイ状態)



## 4 ATシフト変更ストップまたはフットブレーキストップのテスト

- 注意** ●誤作動防止のため、リモコンの電波はスイッチを押して、1.5秒後から発信します。

1. イグニッションキーでエンジンをかけ、パワースイッチをオンにする(すでにパワースイッチがオンされている場合は不要)
2. ATシフトをPにして、イグニッションキーを抜く
3. リモコンのスタートスイッチを2~3秒押す
4. 5秒後にセルが回りエンジンが始動し、カウントダウン開始



5. イグニッションキーをACCにする
6. フットブレーキを踏んでATシフトをP→Rにする
7. エンジンが停止し、ディスプレイにErr-表示が2秒間点灯
8. Err-表示が消えれば元のスタンバイ状態に復帰



## 5 ボンネットオープンスイッチのテスト

●ボンネットオープンスイッチは、エンジン始動中、停止中に関わらず常時作動します。

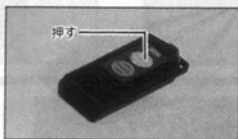
1. ボンネットレバーを引く



2. ATシフトをPにして、イグニッションキーを抜く



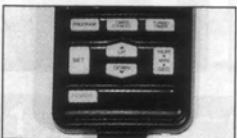
3. リモコンのスタートスイッチを2~3秒押す



4. エンジン始動せず



5. イグニッションキーでエンジンをかけ、パワースイッチをオンにする



6. ディスプレイが点灯すれば元のスタンバイ状態に復帰



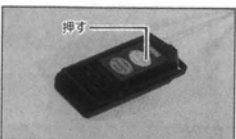
## 6 キースイッチ優先回路のテスト

**▲注意** ●ピータイムでエンジンがかかっている時にイグニッションキーをセルまで回すと、セルモーターが故障する恐れがありますので、オンの位置で止めてください。

1. ATシフトをPにしてイグニッションキーを抜く



2. リモコンのスタートスイッチを2~3秒押す



3. 5秒後にセルが回りエンジンが始動しカウントダウン開始



4. イグニッションキーをONまで回すと、カウントダウン中止



5. カウントダウンが中止すれば走行することができます



# 4

## 取扱い方法

イコムの評判を聞き

音響部AS表示音響部

### 1 IDメモリーのセット

●IDメモリーのセットとは、リモコンのIDコードをピータイムの操作部に記憶させることです。

#### ▲注意

- IDメモリーのセットを行う時は車の電装品はもちろんテレビ・ラジオ・ドアブザー・周辺の強い電波などが無い状態で行ってください。
- 誤作動を防止するため、リモコンはスイッチを押してから1.5秒後に電波発信します。
- ピータイム取付け後やバッテリー交換後など電源投入後に必ずIDメモリーのセットを行ってください。

1. 車の電装品を全てOFFにしてATシフトを[P]にしイグニッションキーを抜く



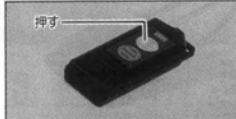
2. ボリューム用ドライバーでリセットスイッチを押してはなす



3. ディスプレイが8888に点灯しすぐに消灯する



4. リモコンのアンテナを伸ばし、スタートスイッチを2~3秒押す



5. ディスプレイにgoodが点灯しすぐに消える



IDメモリーのセット終了

### 2 リモコンの使用上の注意と電池の交換

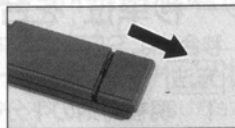
#### ▲注意

- アンテナ及び、リモコンケースを手で覆ってスイッチを押すと、リモコンの飛距離が短くなりますので注意してください。
- 電池は1500回以上送信が可能です。  
(通信距離が短くなった場合、又はリモコンのLEDが点灯しない場合は電池交換をして下さい)

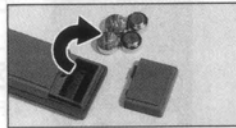
#### リモコンの電池の換えかた

●使用電池はアルカリボタン電池 LR44 (4個使用)

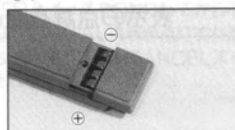
1. ふたを開ける



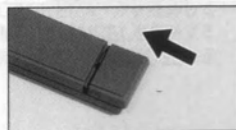
2. 電池を出す



3. 電池を入れる (電池の方向は下図に従ってください)



4. ふたを閉める



使用者への注意

### 3 現在時刻のセット

時間表示は24時間制

**セット方法** 例えばCLOCKを12:34に合わせるとして

1. イグニッションキーでエンジン始動  
ATシフトを回にする



5. HUR/MIN/SECで“時の桁”点滅させる



9. SETを押す



2. POWER ON



6. UPまたはDOWNで“時の桁”を合わせる((注)24時間制)



3. PROGRAMスイッチで表示をCLOCKに合せる



7. HUR/MIN/SECで“分の桁”を点滅させる



4. SETを押す



8. UPまたはDOWNで“分の桁”を合せる



#### “秒単位”を合せるには

秒合せは、SETスイッチを解除したとき0秒となります。

#### 方法

- 1 現在時刻の1分後に時刻を合せる
- 2 SETスイッチを押して表示を点滅させる
- 3 時報と同時にSETスイッチをもう一度押して表示の点滅を止め、完了

## 4 タイマースターター予約のセットとキャンセル

時間表示は24時間制

セット方法 □ TIMERを7:15に合わせる

注意

- タイマースターター予約後はどのモードになっていてもタイマーキャンセルが作動しないかぎりエンジンがタイマーで始動します。
- カウントダウン中に走行するときはイグニッションキーをONの位置まで回し、フットブレーキを踏んでからシフトをチェンジしてください。

1. イグニッションキーでエンジン始動  
ATシフトを□にする



2. POWER ON



3. PROGRAMスイッチで表示を□TIMERに合わせる



4. SETを押す



5. HUR/MIN/SECで“時の桁”を点滅させる



6. UPまたはDOWNで“時の桁”を7にする((注)24時間制)



7. HUR/MIN/SECで“分の桁”を点滅させる



8. UPまたはDOWNで“分の桁”を15にする



9. SETを押して完了



1日に2回分のタイマー予約を入れるには  
PROGRAMスイッチで□TIMERに合せてから  
4～9の手順をくり返してください

## タイマースターター予約をキャンセルする方法

タイマースターター予約を完全にキャンセルする方法

タイマースターター予約と同じ方法で0:00 (予約されていない表示) にセットする

スターター予約を生かした状態でキャンセルする方法

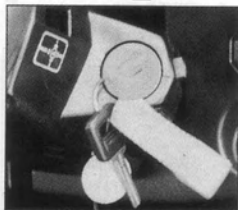
POWERスイッチをONにしてからTIMER CANCELスイッチを押してTIMER CANCEL表示が点灯すればOK。TIMER CANCELを解除するにはもう一度TIMER CANCELスイッチを押しTIMER CANCEL表示が消えればOK。

## 5 リモコン及びタイマーでエンジンスタートさせた時のアイドルング時間の変更

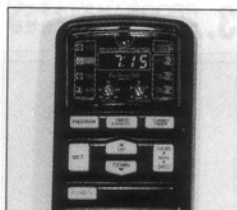
### セット方法

アイドルング時間の初期設定は15分になっています。WARMを30:50に合わせる

1. イグニッションキーでエンジン始動  
ATシフトをDにする



2. POWER ON



3. PROGRAMスイッチで表示をWARMに合わせる



4. SETを押す



5. HUR/MIN/SECで"分の桁"を点滅させる



6. UPまたはDOWNで"分の桁"を変更する



7. HUR/MIN/SECで"秒の桁"を点滅させる






8. UPまたはDOWNで"秒の桁"を変更する



9. SETを押して完了



## 6 ターボタイマーのセット

- オートターボタイマーはTURBOTIMERスイッチを押してAUTO  にしてご使用ください。
- マニュアルターボタイマーはTURBO  ・TURBO  の2種類のタイムをあらかじめセットしておけます。

### セット方法 TURBO を3分45秒に合せる

1. イグニッションキーでエンジン始動  
ATシフトをPにする




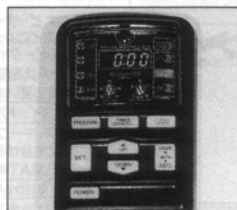
2. POWERON



3. TURBO TIMERスイッチを押す



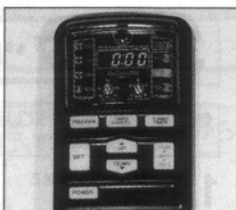
4. TURBO TIMERスイッチをもう一度押してTURBO  にする



5. SETを押す



6. HUR/MIN/SECで“分の桁”を点滅させる



7. UPまたはDOWNで“分の桁”を3にする



8. HUR/MIN/SECで“秒の桁”を点滅させる



9. UPまたはDOWNで“秒の桁”を45にする






10. SETを押して完了



TURBO  にタイムを入れるには  
4の動作でTURBO  に合せてから4~10  
の手順をくり返してください。

#### 注意

- ターボタイマーを使用しないときはPROGRAMスイッチを押してAUTO  ・TURBO  ・TURBO  の表示を消してください。
- カウントダウン中に走行するときはイグニッションキーをONの位置まで回し、フットブレーキを踏みながらATシフトをチェンジしてください。

# 取付け者への注意

## 1

### 取付け前の注意

- 保証書は必ず「販売店名印」「お買い上げ日」が記入されているか、記載の内容をご確認いただき、大切に保管してください。
- 本製品にはお買い上げの日から1年間の保証がついています。(但し、使用方法及び、取付方法の誤りによる故障は保証の対象になりません。)

#### ⚠危険



ピータイムは取付けや使用方法を誤ると事故や火災を招く恐れがあります。取扱説明書の注意をよく読み、理解してから取付けてください。

ピータイムは、ピータイム車種別専用ハーネス以外で取付けると、コードの容量不足や接触不良などによって事故や火災の原因となり危険です。

必ず、別売のピータイム車種別専用ハーネスで取付けてください。

(車種・型式・年式を確認の上 95.7以降のピータイム専用ハーネス車種別適合表 より正しいものをお買い求めください。)

●マイナススイッチ方式のホーンは市販のホーン・リレーが必要です。



●キーオフ時、キーロックリレーアダプターを装着した日産AT車は、ATシフトがP以外でも抜けるようになります。

従って、日産AT車は必ずATシフトをPに入れてからキーを抜いてください。

日産AT車へ取付ける場合は、別売のキーロックリレーアダプターが必要です。

ピータイムは国産12VのAT車で、イグニッションキーのみでエンジンを始動することができる車に取付けできます。

従って、下記の車種には、ピータイムを取付けしないでください。

#### ⚠注意



24V車(寒冷地仕様などでバッテリーが2個付いている12V車は取付けできます。)



マニュアルミッション車



キャブ車(イグニッションキーのみでエンジンがかからない車)



エンジン始動直後、チャージランプが消えない車



輸入車

#### ⚠注意

下記装置はエンジンスターターを装着すると、正常に働かなくなる車種がありますので、ご容赦ください。



リモコンアロック  
セキュリティシステム



オートポジションステアリング & シート



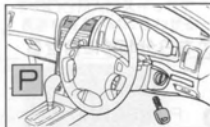
オートヘッドランプ

#### ⚠注意

エンジン始動検出を自動、L端子②(緑)コード、又はオプションの-956Lで行った場合、エンジン始動後ホーンを鳴らす機能が作動しません。ホーンを鳴らす機能が必要な場合は、エンジン始動検出をL端子①(白)コードで行ってください。

## 2

### 取付け作業中の注意



作業中、イグニッションキーは必ず抜き、ATシフトはPに入れ、ハンドブレーキをしっかり利かせてください。



ピータイムのコードが車の金属部(ペダル・スプリング・鋭利な鉄板など)に触れていると、時間が過ぎてからコードの被覆が削れて、ショートする恐れがあります。



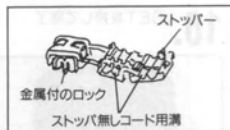
●コードが金属部に触れないように、インシュロック(小)を使って配線してください。  
●コードが触れそうな金属部に、コード保護テープを貼ってコードを保護してください。  
●コードの配線確認や配線のやり直し等を考えて、コード保護テープは貼り直しができませんので、必ずコードではなく、金属部に貼ってください。

## 3

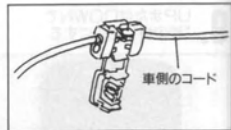
### タップの使用法

- タップの使い方が誤っていると、接触不良または、ボディへのショートなどが発生し危険です。下記の手順で使用してください。

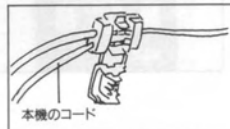
1. タップを図のように見る



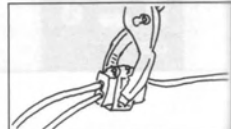
2. ストッパー無しコード用溝に車側のコードをさし込む



3. ストッパー付の溝へ本機のコードをさし込む



4. 金属付のロックをかぶせプライヤーなどでロックする



取付け者への注意



# 標準取付け方法

## 1 取付け方法概略

専用ハーネスとリレー部・操作部のドッキング

専用ハーネスを車へ取付け

アース端子(黒)の取付け

エンジン始動検出方法の選択

1 オルタネータのL端子で検出する場合

2 電源から自動検出する場合

3 Be-956Lで振動検出する場合

操作部裏の検出  
スイッチ

1をL・2をLにする

1をA・2をAにする

1をA・2をLにする

検出コード

L端子1(白)コードをオルタネータに配線

不 要

L端子2(緑)コードをBe-956Lに配線

ホーンへの配線

ホーン+端子(橙)コードの配線(任意)

不 要

不 要

④ マイナススイッチ方式のホーンは市販のホーンリレーが必要です

標準取付け方法

## 2

# 検出方法の選択

## 1 検出方法の比較表

- このピータイムは、エンジン始動やオートターボタイマーの検出を3パターンの方で各車種フィットするよう考えられています。取付け前に下記表を参考に取付け方法を選択してください。

	特性	検出方法	オルタネータのL端子で検出	電源から自動検出	Be-956Lで振動検出
スターター	ホーンで始動合図		○	×	×
	検出の確実性		○	△	△
	エアコンのファンモーターなどの電気ノイズによる影響		○	△	○
	エアコンのファンモーターなどの振動による影響		○	○	△
	ラジオなどの音による影響		○	○	△
	電子制御のATミッションノイズの影響		○	△	○
	電子制御でないディーゼル車での低温時の始動性		△	△	○
オートターボタイマー	エアコンやワイパーモーターなどの電気ノイズの影響		○	△	×
	電子制御のATミッションノイズなどの影響		○	△	×

## 2 検出方法の違いによる注意

### スターター

Be-956Lアイドリングセンサー(オプション)とは

スターター使用時のみ(オートターボタイマーは不可)に使用でき、オルタネータのL端子(L端子1(白)コードの配線)や電源から自動検出しても、エンジン始動の検出ができない(セルを3回回してエンジンストップする)時に使用してください。検出方法はエンジン始動後に車の振動を検出し判断します。

### スターター

ホーンで始動合図

オルタネータのL端子電圧変化をL端子1(白)コードから検出して、ホーンを鳴らすので、電源から自動検出する方法や、Be-956Lを使用する方法ではホーンを鳴らさせません。また、ホーンへの配線は、ホーン⊕端子(橙)コードをホーンへ直接配線してください。但し、マイナススイッチ方式のホーンに配線する場合は、市販のホーンリレーを使用してください。

## スターター

### 検出の確実性

確実性の高さは、オルタネータのL端子(L端子1(白)コードの配線)で検出する方法が一番確実性が高く安心です。但し、エンジン始動直後にチャージランプが消えない車、ビッグホーンなどのディーゼル車の一部の場合は、検出できない事があるため、オプションのBe-956Lを御使用下さい。

## スターター

### オートターボタイマー

### エアコンのファンモーターの電気ノイズによる影響

- 電源から自動検出する方法でマニュアルエアコンでファンモーターを最大にしたり、オートエアコンのオートモード(始動時ファンモーターが最大になりやすい)でエンジンスターターを使用すると、ファンモーターの電気ノイズが電源に入ってくるオルタネータの信号を消してしまいエンジン始動やフルオートターボタイマーの検出ができなくなる場合がありますので、ファンモーターの風量を中以下で使用してください。
- オルタネータのL端子(L端子1(白)コードの配線)で検出する方法を行った場合は、ファンモーターの影響がなくなります。

## スターター

- ・エアコンのファンモーターの振動による影響
- ・ラジオ等の音による影響

オプションのBe-956Lは、オルタネータのL端子でも検出できない場合に使用しますが、車の振動を検出してエンジン始動を判断しますので、Be-956Lの取付け場所によっては、エアコンのファンモーターの振動やラジオ等の音に影響されます。よってBe-956Lを設定した時と同様の使い方をしないと検出できない事があります。

## スターター

### オートターボタイマー

### 電子制御のATミッションノイズの影響

三菱のFTO・ディアマンテなどのインボックスⅡ車、クラウン(120、130系)セドリック、グロリアなどは、電源から自動検出する方法でピータイムを取付けると、ATミッションのノイズでエンジン始動やオートターボタイマーの検出が不確実になります。

従って、オルタネータのL端子(L端子1(白)コードの配線)で検出する方法で取付けてください。

## スターター

### 電子制御でないディーゼル車で低温時の始動性

ビッグホーンなどの電子制御でないディーゼル車で低温時にエンジンを始動すると、かかり始めのエンジン回転(アイドリング)が非常に低く、オルタネータが発電できない(チャージランプが消えない)場合があります。

この場合、Be-956Lでエンジン始動検出を行ってください。

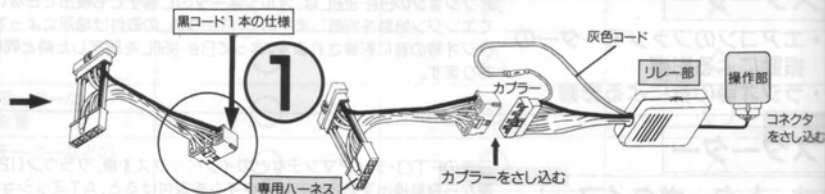
# 3

## 専用ハーネス・リレー部・操作部の配線

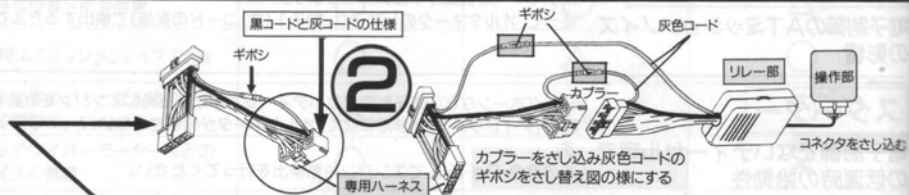
●下記の説明図はBe-151の専用ハーネスをモデルとしています。

《 下記の①②③から専用ハーネスの番号と仕様を確認のうえ、  
それぞれの配線方法に従って作業を行なってください。 》

専用ハーネス番号	Be-	156	161	241	351
		352	353	354	355
		455	458	553	554
		651	652	751	752
		753	754	851	852
		853	854	855	856
		857	858	859	860
		861	862	863	



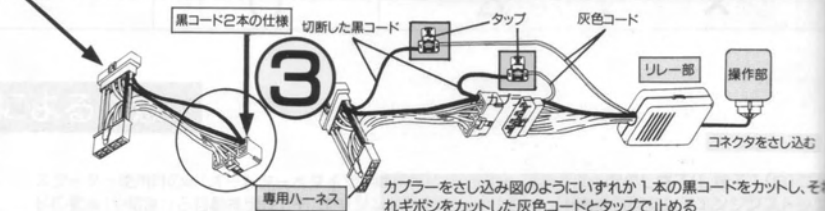
専用ハーネス番号	Be	151	152	153	154	155	157
		158	160				
		251	252	253	254	255	256
		258	259				
		451	452	453	454	456	
		551	552	653			



### 重要 必ず行なう事

この灰色コードのさし替えは必ず行なってください。

このさし替えを行わない場合、エアコンが正常に動作しない、ATシフト変更ストップが働かない、アイドリングが不安定になる、オルタネータの破壊、バッテリー上がり、車のコンピュータ破壊などを引き起す事種があります。よって誤りのない様に配線してください。



## 4 専用ハーネスを車へ取付け

専用ハーネスをイグニッションキースイッチの  
カプラーへさし込みます。



イグニッションキースイッチの近くの  
カプラーをはずし、カプラーを見つけた  
ら抜き、イグニッションキーを回しエン  
ジンがかからないかを確認する。もし  
エンジンがかかればそのカプラーは  
間違っているということになります。

**注1** (緑/白)線・(黄/白)線・(黄/白)線など白ラインの入っているコード  
を車側へ、白ラインの入っていないコードはイグニッションキー  
スイッチ側へさし込んで下さい。

**注2** 専用ハーネスのみ(ピータイム本体を取付けてない)を取付け  
たときはセルは回りますが、エンジンはかかりません。

### 参考資料

**一般車** イグニッションキースイッチの裏から10~30cmにカ  
プラーがあります。

**イグニッションキー  
スイッチ直付** Be-155・160・161・253・259・352・354・  
355・453・454・455・458・651・863

**ヒューズボックス付近** Be-852・853・856・857

**イグニッションキー付近とヒューズボックス付近**

Be-854・855・858・859・860

**プレリウド** ステアリング右下に3P、ヒューズボッ  
(Be-858) **取付注意** クス上に5Pをさし込む

ステアリング右下に5Pを結線するとピータイムのIG2が壊れ  
ます。

**Be-351** は合計3個のカプラーをはずし専用ハーネスを付  
けるのですが、そのうち2個は同じ形のカプラーがあります。  
専用ハーネスの(緑/白)線・(黄/白)線のある方を車側のカプラーへ  
緑線・黄線など白線の入っていない方をイグニッションキー  
スイッチ側へさし込んでください。

**日産AT車** キーロックリレーアダプターが必要です。

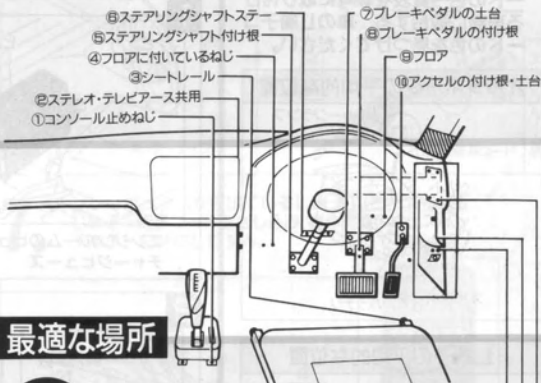
## 5 アース端子(黒)の正しい取付け

### 不適切な場所



不適切な場所へアース端子を取付けるとリモ  
コンの飛距離が短くなったり、その他のトラ  
ブル発生の原因になります。  
(テスターでアースが取れていても不適切な場  
所はたくさんあります。)

①~⑩までのようなフロア(床)からボンネットルームまで  
の部分及びそれに付いている部分にはアース端子を取付  
けないでください。



### 最適な場所



- ボンネットオープンレバーの取付ねじ — 一部の日産車
- ダッシュボードのつけ根 — ホンダ車
- サブフレームのつけ根 — トヨタ車

塗装されていないフレームへアース端子ができるだけ多く接するように  
取り付け

ネジだけに端子が接しているのは良くない

# 6

## 検出方法別配線方法

### 1 オルタネータのL端子で検出する場合

L端子1 (白)コードを使用

#### バッテリー充電のメカニズム

イグニッションキーオン → チャージランプ点灯 → セルを回す → エンジン始動 → オルタネータが発電 → バッテリー充電 → チャージランプ消灯

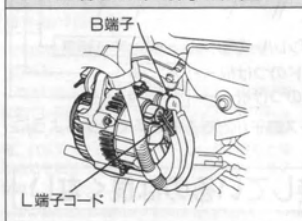
### ■ L端子を見つける

- 35ページ～37ページ車のL端子コードの色一覧表を参考に取り付ける車種に適合する、車のL端子コードの色を見つけてください。

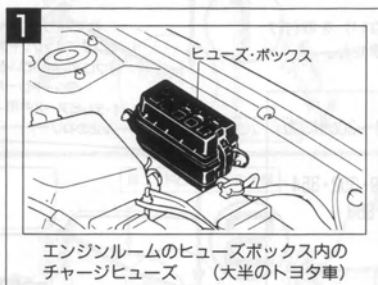
#### オルタネータの平均的な位置



#### L端子の平均的な位置

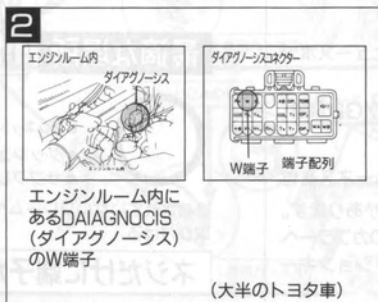


- トヨタは別の所からでもL端子コードと同じ始動検出ができます。



#### 参考

- 1のヒューズボックスは大半のトヨタ車に付いています。(RAV-4は付いていません)
- 2・3のダイアグノシスは車種によっていずれか又は全く無い場合があります。

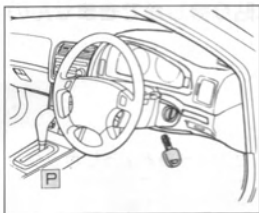


## ■ L端子1 (白)コードの配線方法

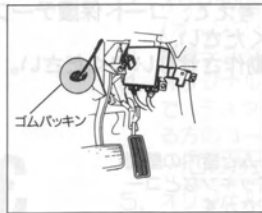
### ▲ 注意

- L端子1 (白)コード及び、延長コードが車の金属部にショートすると車の故障や火災の原因になります。そのコードが触れそうな金属部にはコード保護テープを貼りつけ、インシュロック(小)を使用して保護してください。(コードの配線確認や、配線のやり直し等を考えて、コード保護テープは貼り直しができませんので、必ずコードではなく、金属部に貼ってください。)
- L端子1 (白)コードとオプションのアイドリングセンサー (Be-956L)との組み合わせをしないでください。
- L端子にコードを配線する時は、必ずイグニッションキーを抜き、ピータイムの電源を切った状態で行なってください。

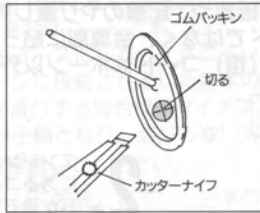
1. ATシフトをPにしてイグニッションキーを抜く



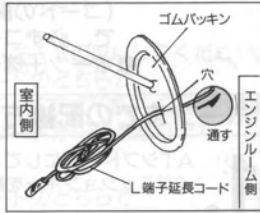
2. エンジンルームと室内の壁面にあるゴムパッキンなど、コードが通る場所をさがす



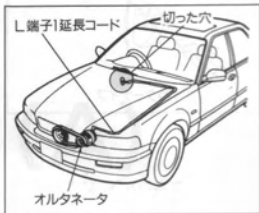
3. コードが通るようにカッターナイフなどで、ゴムパッキンなどを切り穴を開ける



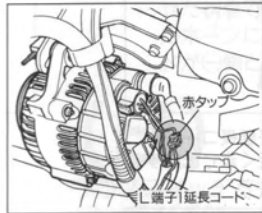
4. 切った穴にL端子1延長コードのギボシ端子の付いていない方から入れる



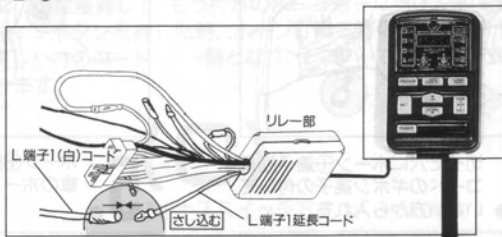
5. 車のL端子コード又はヒューズボックス又はダイアグノースボックスまでL端子1延長コードを配線する



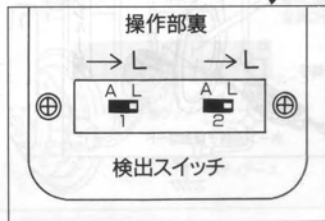
6. 車のL端子コードと、配線したL端子1延長コードを付属の赤タップで結線する



7. リレーボックスから出ているL端子1 (白)コードと、L端子1延長コードをさし込み、操作部裏の検出スイッチを1・2共にLにする。



オルタネータへ配線したケースで説明してあります。



標準取付け方法

## ■ホーン⊕端子(橙)コードの配線方法

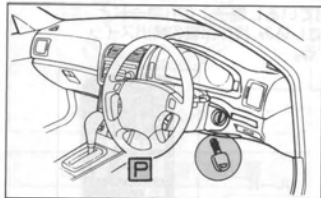
### ▲注意

- ピータイムでエンジン始動した後に、車のホーンを鳴らすようにする場合は、L端子1(白)コードの配線が必要です。
- 始動合図が不要の場合は、ホーン⊕端子(橙)コードの結線をしないでください。
- ホーンがマイナススイッチ方式の車には、市販のホーンリレーが必要です。
- ホーン⊕端子(橙)コードは、ハンドルのホーンコードへは結線しないでください。ピータイムの故障の原因になります。
- ホーン⊕端子(橙)コード及び、延長コードが車の金属部にショートすると、ピータイムの故障と車のホーンのヒューズ切れが同時に発生します。  
そのコードが触れそうな金属部には、コード保護テープを貼りつけ、インシュロック(小)を使用して保護してください。  
(コードの配線確認や、配線のやり直し等を考えて、コード保護テープは貼り直しができませんので、必ずコードではなく、金属部に貼ってください。)
- ホーン⊕端子(橙)コードはホーン以外を動作させないでください。

### ホーンまでの配線方法

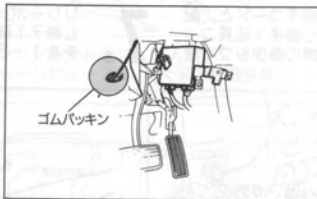
1.

ATシフトを☉にして  
イグニッションキーを抜く



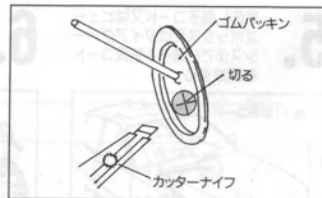
2.

エンジンルームと室内の壁面  
にあるゴムパッキンなどコー  
ドが通る所をさがす



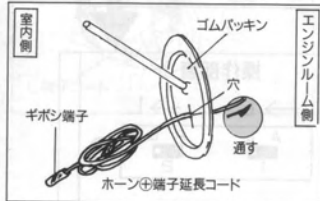
3.

コードが通るようにカッター  
ナイフなどでゴムパッキンな  
どを切り穴を開ける



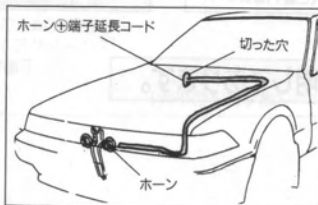
4.

切った穴にホーン⊕端子延長  
コードのギボン端子の付いて  
いない方から入れる



5.

ホーン⊕端子延長コードを  
車のホーン近くまで配線する



ホーンへの接続方法は  
次のページです。



## ■ホーンへの接続方法

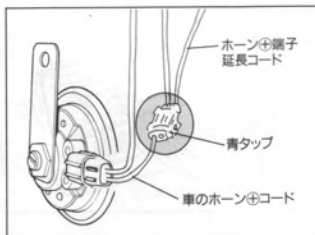
ホーンは“プラススイッチ方式”(A)(B)、“マイナススイッチ方式”(C)の3種類があります。下記の方法でホーン方式を調べて(A)~(C)のいずれかの方法で接続してください。

### ホーンスイッチ方式の確認

- ①車のオリジナルのホーン1ヶにつき1本の配線がされている場合は、“プラススイッチ方式”です。→**Aの方式**で接続してください。
- ②車のオリジナルのホーン1ヶにつき2本の配線がされている場合は、車によって2種類の方式がありますので、下記の手順で確認してください。
  1. 検電テスターを用意してください。
  2. オリジナルホーンに接続されている配線を全て外してください。(ホーン2ヶの場合はコード4本)
  3. 検電テスターをアースにして、イグニッションキーをONにしてください。
  4. オリジナルホーンに接続されていた2本のコードのどちらかで、テスターが点灯する場合は“マイナススイッチ方式”です。又、点灯する方のコードが⊕側となり、点灯しない方のコードが⊖側となります。→**Cの方式**で接続してください。
  5. オリジナルホーンに接続されていた2本のコードのどちらでも、テスターが点灯しない場合は“プラススイッチ方式”です。→**Bの方式**で接続してください。この場合は、外した2本のコードのどちらか一方をオリジナルホーンに再度接続して、もう片方のホーン端子にテスターを接続させた状態で、ホーンボタンを押した時、ホーンが鳴る方のコード(オリジナルホーンに接続した方のコード)が⊕側となり、テスターでつないだ方のコードが⊖側となります。

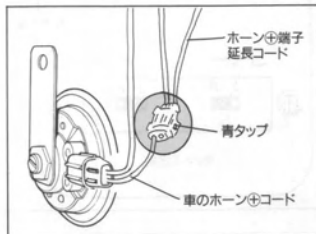
# (A)

プラススイッチ方式  
(コード1本の場合)



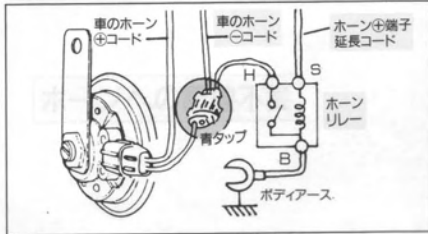
# (B)

プラススイッチ方式  
(コード2本の場合)



# (C)

マイナススイッチ方式(コード2本の場合)  
市販のホーンリレーを使用して図の様に接続して下さい。



## 2 電源から自動検出する場合

検出コード使用せず

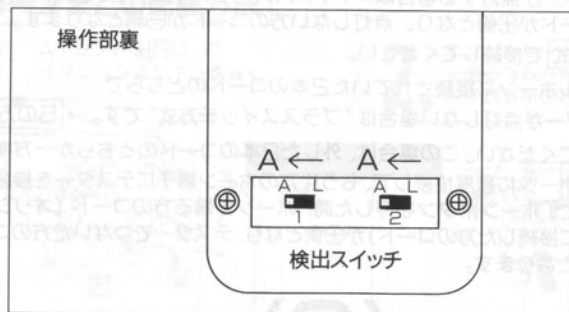
### ▲注意

電源から自動検出した場合、下記項目などによって確実に検出できない場合があります。従って、下記項目にあてはまる場合は、オルタネータのL端子又は、オプションのBe-956Lで検出する方法で行ってください。

- ビッグホーンなどの電子制御でないディーゼル車 (Be-956Lを使用。アイドル時発電しない車。)
- 三菱のFTO・ダイヤモンドなどのインベックスII車
- クラウン (120・130系)
- セドリック・グロリア
- エアコンのファンモーターを中以上で使用する場合

### ■検出スイッチのセット方法

操作部裏の検出スイッチを1・2共にAにする



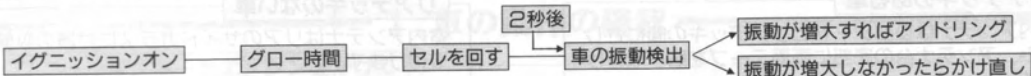
検出コードの配線不要

ホーンへの配線不要

### 3 オプション Be-956L で振動検出する場合

L端子(緑)コードを使用

#### Be-956L結線時のメカニズム

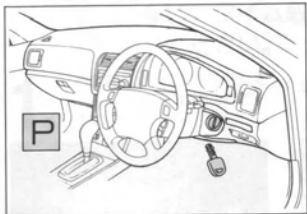


#### 注意

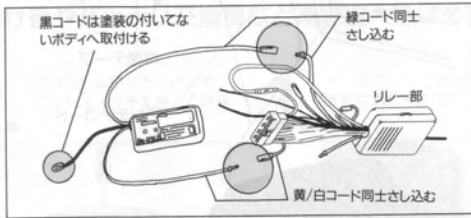
- オプションのアイドリングセンサー(Be-956L)を取付ける時、L端子1(白)コードには、結線せず、L端子2(緑)コードと結線してください。
- (Be-956L)の本体はエアコンのファン・スピーカ等の振動や音の影響の少ない場所へ取付けてください。

### ■Be-956Lの取付け方法

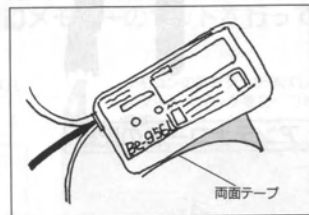
1. ATシフトをPにしてイグニッションキーを抜く



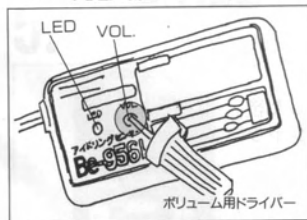
2. Be-956Lの緑コードとリレーボックスの緑コードをさし込む  
Be-956Lの黄/白コードとリレーボックスの黄/白コードをさし込む  
Be-956Lの黒コードは塗装の付いていないボディへ取付ける



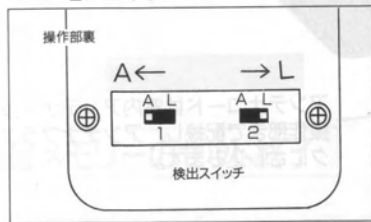
3. Be-956Lの本体はこの後の調整のしやすいように、エアコンのファン・スピーカの振動や音の影響の少ない場所へ両面テープで取付ける



4. 共にイグニッションキーONでエンジン始動時→LED点灯  
エンジン停止時→LED消灯するように付属のボリューム用ドライバーでVOL.を調整する



5. 操作部裏の検出スイッチの1をA、2はLにする



ホーンへの配線不要

## 7

## 室内アンテナの配線

## リアデッキのある車

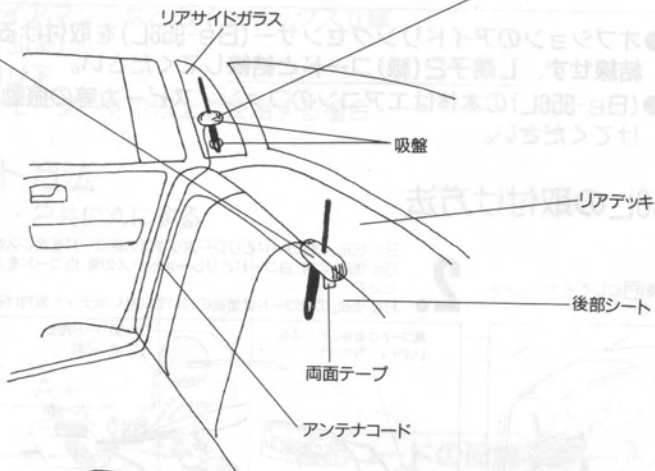
室内アンテナは後部シートとリアデッキの間にさし込み、アンテナ台の底部に両面テープを貼り取付けます。

## リアデッキのない車

室内アンテナはリアのサイドガラスに付属の吸盤で取付けます。



アンテナコードの配線



アンテナコードは室内アンテナを設置した後、操作部まで配線し、アンテナプラグをジャックにさし込みます。



# 8

## 動作確認及び調整

●ピータイムを組み込む前に車及びピータイムが正しく動作するかどうかの確認を行なってください。

### 1. 車の動作の確認

イグニッションキーでエンジンをかけて

エアコン使用時、コンプレッサーが動作していますか？

オートクルーズが動作しませんか？

アイドリングが下がって不安定になっていませんか？

ランドクルーザー等

日産・スバルの一部

対処方法 7ページの灰色コードのさし替えがされていません。

### 2. ピータイムの動作確認

#### 1 | IDメモリーのセット

●IDメモリーのセットとは、リモコンのIDコードをピータイムの操作部に記憶させることです。

#### ▲注意

- IDメモリーのセットを行う時は車の電装品はもちろんテレビ・ラジオ・ドアブザー・周辺の強い電波などが無い状態で行ってください。
- 誤動作を防止するため、リモコンはスイッチを押してから1.5秒後に電波発信します。
- ピータイム取付け後やバッテリー交換後など電源投入後は必ずIDメモリーのセットを行ってください。

1. 車の電装品を全てOFFしてからATシフトを[P]にしてイグニッションキーを抜く



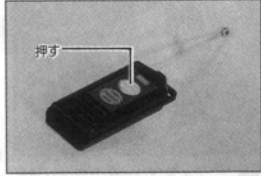
2. ボリューム用ドライバーでリセットスイッチを押してはなす



3. ディスプレイに8888が点灯しすぐに消灯する



4. リモコンのアンテナを伸ばし、スタートスイッチを2〜3秒押す



5. ディスプレイにgoodが点灯しすぐに消える



IDメモリーのセット終了

## 2 エンストポジションボリュームの調整

■エンストポジションボリュームの調整は、検出方法を電源から自動検出する方法を選択した時のみ行ってください。

- エンストポジションボリュームを調整していないと、エンジン始動検出ができない場合があります。
- セルスタートを3回繰り返す。
- エンジンが始動せず、セルスタートを1回で終了する。
- 調整する時は、エアコンのファンモーターを中以下で行ってください。(エアコンのファンモーターを中以上にセットすると、モーターのノイズの為エンジン始動検出できない場合があります。エンジンスタート時はエアコンのファンモーターを中以下にセットしてください。)

1. イグニッションキーをON  
(エンジンはかけない)



2. ボリューム用ドライバーで、エンストポジションボリュームを10から0方向へ回し、ディスプレイのドットが消える所から1目盛り0方向で止める



3. エンジンを始動してドットが点灯



2. でドットが消えない場合は  
3. でドットが点灯しない場合は

▼  
電源から自動検出する方法を中止し、オルタネータのL端子で検出する方法に変更してください

## 3 オートターボタイマーのテスト

1. イグニッションキーでエンジン始動  
ATシフトをPにする



2. ターボタイマースイッチを押してオートにする



3. 30秒以上アイドリングしてディスプレイのカウントが上がらないことを確認する



4. 10秒以上エンジン回転を約2000回転に保つ



5. ディスプレイのカウントが上がる事を確認する



▼  
■エンストポジションボリュームの調整はオルタネータのL端子で検出する方法又は、Be-956Lで振動検出する方法を選択した時のみ行ってください。



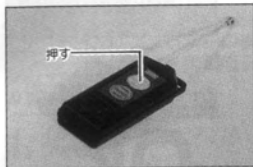
エンジン始動検出をオルタネータのL端子で行う方法に変更してください。

### ▲注意

検出方法を電源から自動検出する方法を選択した時は検出方法をオルタネータのL端子で検出する方法に変更し、エンストポジションボリュームを調整してください。

## 4 リモコンでエンジンスタート・ストップのテスト

1. リモコンのスタートスイッチを2~3秒押す



2. ディスプレイに15:00の表示が出る



3. 5秒後にセルが回りエンジンが始動し、カウントダウンが始める



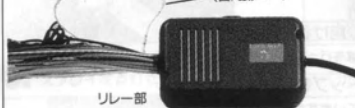
4. リモコンのストップスイッチを2~3秒押してエンジンがストップする



### Err-表示が出てセルが回らない場合

ブレーキコード(黄/銀)

(白/銀)コード



リレー部

リレー部のATシフトストップスイッチを1の場合2へ、2の場合1へ変更する

リレー部から出ているブレーキコード(黄/銀)と(白/銀)コードが抜けていたり、ブレーキコードに12Vが入力されるとErr-表示します。

セルタイムが長くてセルの引きずりが発生する場合

セルタイムが短くて3回セルを回してストップする場合



- オルタネータのL端子で検出する方法を選択した場合は、セルタイムボリュームを最大にしてください。
- 電源から自動検出する方法又は、Be-956Lを選択した場合はセルタイムボリュームを回し、各車に合わせてください。

エンジンが始動しすぐに止めるを3回繰り返す場合

- 電源から自動検出する方法を選択した場合は、オルタネータのL端子で検出する方法に変更してください。
- オルタネータのL端子で検出する方法を選択した場合は、Be-956Lで振動検出する方法に変更してください。
- Be-956Lで振動検出する方法を選択した場合は、Be-956Lの取付け場所の変更又は、調整をやり直してください。

セルが回り続ける場合

ブレーキコードの配線を行ってください。

## 5 ATシフト変更または、フットブレーキストップのテスト

3. 5秒後にセルが回りエンジンが始動する



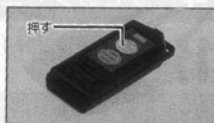
4. イグニッションキーをACCまで回し、フットブレーキを踏んでATシフトをPからRにする



1. シフトをPにレギュレーションキーを抜く



2. リモコンを2~3秒押す



5. エンジンがストップし、ディスプレイにErr-表示



Err-が消えれば元のスタンバイ状態に復帰

# OK

### 2でエラーランプが消えない時

- リレー部から出ているブレーキコード(黄/銀)と(白/銀)のコードが抜けていませんか?
- ボンネットスイッチが押されていませんか?

### 3でセルが回らない時

- 専用/ハーネスの番号は正しいですか?
- 専用/ハーネスの取付位置は正しいですか?

### 3でセルが回り続ける時

- ブレーキコード(黄/銀)の配線を行ってください。

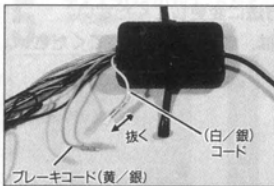
### 5でエンジンがストップしない時

- 灰色コードのさし替えはできていますか?
- 日産車の一部(インフィニティ・シーマ・セドリック・グロリア・ブルーバード等)、三菱デリカスペースギアなどはストップしない車があるのでブレーキコード(黄/銀)の配線を行ってください。

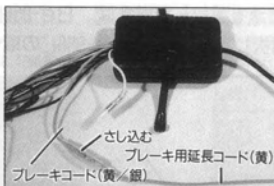
ATシフトをPからRにしてエンジンがストップしない車とリモコンスタート時、セルが回り続ける車はブレーキコード(黄/銀)の配線を必ず行なってください。

## ■ブレーキコード(黄/銀)の配線

1. リレー部のブレーキコード(黄/銀)と(白/銀)のコードを抜く



2. ブレーキ用延長コード(黄)、ブレーキコード(黄/銀)のギボシをさし込む



3. ブレーキ用延長コード(黄)をフットブレーキを踏んで12V、放してOVのコードへ青テープで結線する



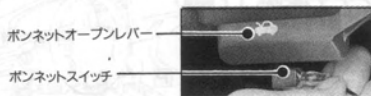


## 6 ボンネットオープンスイッチの取付けとテスト

- エンジンオン・オフに関わらず、ボンネットレバーを引くと、ピータイムの電源を切り、万一の事故を防止します。再使用する場合は、イグニッションキーでエンジン始動してパワースイッチを押してください。

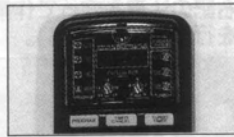
### 取付け

リレー部から出ているボンネットスイッチをボンネットオープンレバーの後側(指が当たる所)へボンネットオープンスイッチ用両面テープで貼り付けてください。

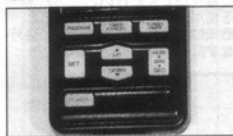


### テスト

1. イグニッションキーでエンジンを始動する
2. ディスプレイが点灯している事を確認
3. ボンネットレバーを引く
4. ディスプレイの表示が消える。



5. パワースイッチを押してディスプレイを点灯させる



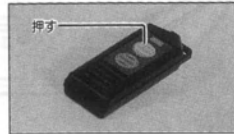
▶ OK

## 7 キースイッチ優先回路のテスト

### 注意

リモコンでエンジン始動中にイグニッションキーをセルまで回すと、セルモーターが故障する恐れがありますので、オンの位置で止めてください。

1. シフトをPにしてイグニッションキーを抜く
2. リモコンを2~3秒押す
3. 5秒後にセルが回りエンジンが始動する
4. イグニッションキーを[ON]まで回しカウントダウンを中止する

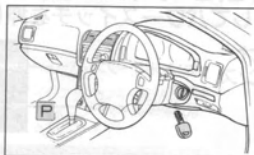


▶ OK

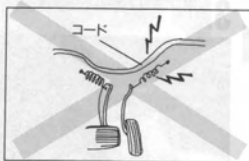
## 9

## ピータイムの収納・取付け

**⚠危険** 誤ったピータイム(操作部・リレー部・コード類)の収納方法は、事故や火災などのアクシデントを、時間が過ぎてからでも引き起す原因になります。右記の注意を守って作業を行なってください。



作業中、イグニッションキーは必ず抜き、ATシフトはP、ハンドブレーキをしっかりと利かせてください。

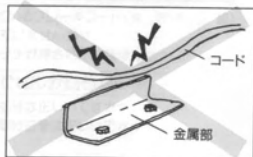


●ピータイムを収納すると、ピータイムのコードや車のコードが移動してコードが車の金属部(ペダル・スプリング・鋭利な鉄板など)に触れやすくなります。予め、コードを収めるスペースで車の金属部がある場合、付属のコード保護テープを貼って置いてください。

(収納時にコードの被覆を削ってしまう事も防止してください。)

●特にブレーキのスプリングは保護してあっても危険です。絶対にコードが触れない場所を選択して配線してください。

●コード保護テープは貼り直しができません。コードの配線確認や配線のやり直しなどを考えて、コードではなく、金属部に貼ってください。



●リレー部はリレー部固定用インシュロック(大)で車の配線などに共締めしてください。

●操作部はズスターと両面テープでフラット面に取付けてください。

●車のダッシュボードなどにそのまま両面テープを使用又は、貼り直しをすると、充分な接着力が得られません。両面テープを貼る面は中性洗剤などで完全に油分やよごれを落し空ふきをしてから、貼り直しをせずに取付けてください。